

市立総合高校 / 県立横須賀高校

2030年の横須賀市を考えるため横須賀市の現状を踏まえた上で、society5.0の社会などの未来のことも見据え、色々な立場の人の未来日記を書きました。

様々な新しい技術を活用して暮らしを最適化したり、横須賀の問題を解決した姿を描いてくれました。一方で、「機械ばかりで人とのつながりがなくなってしまうと寂しい」や「自分で考えたり、動いたりしないとだめだと思う」というような声もありました。

市立総合高校

- ・令和2年12月16日（水曜日）
- ・1～3年生17人

県立横須賀高校

- ・令和2年12月10日（木曜日）
- ・1年生21人



生徒が書いた未来日記の抜粋

- ・テクノロジーの発達により、子育てだけに時間をとられず、仕事も趣味も楽しみながら子育てができるようになる。結果として産む子どもの数が増えた。
- ・授業でVRを使って、歴史を体感して学ぶことができた。
- ・怪我をして入院しているクラスメイトもオンラインで授業を受けられる。
- ・教育はリモートが中心となり、教員の仕事は生徒からの相談や、学習到達度に応じた指導などが主になっている。
- ・テレワークの仕事が終わった後は、高齢者向けパソコン教室の講師として、近所の自治会館で授業を行った。
- ・健康状態に合わせて、食事や運動の内容をすべてAIが決めてくれる。
- ・筋力アシストロボット等の活用により、高齢者の外出が活発になった。

- ・オンライン化により、対面でのコミュニケーションが希薄になったことにより、逆にそれが価値を持ち、それを求める世の中になった。結果として、地域の活動、イベント、お祭りが活発になった。
- ・テレワークの進展により、家族で過ごす時間が増えて、夫婦げんかが増えた。
- ・リアルタイムでの翻訳技術が発達し、オンラインで全世界の人々と母国語で会話ができるようになっている。
- ・AIの進化により、友達がロボットに職を奪われたので、真剣に仕事に励むようになった。
- ・観光の際の移動、情報収集、支払いがスムーズになって、無駄な時間を減らして、横須賀の魅力を目一杯感じられる最高の旅行になる。